

事業概要

現施設の課題等

- 施設の老朽化
- 衛生管理基準への適合
- 生徒数の減少
- 施設の経済性・効率性の向上

民間活力導入 (PFI方式)

- 一体的な施設整備
維持管理・運営
- 民間ノウハウの
活用による
サービス水準向上
- 財政負担の縮減

持続可能な未来を支える 学校給食センター

- 安全・安心で栄養バランスの
取れたおいしい学校給食を
継続的に安定提供できる施設
- 経済的・効率的に給食が提供
できる適正規模の施設 (集約化)
- 気候変動に対応した持続可能な
施設 (SDGs・GX・防災機能)

事業手法

- 事業手法：**PFI** (Private Finance Initiative) 方式
 - ▼設計・建設・維持管理・運営を一括契約・包括委託
 - ▼特定財源を除く整備費の資金を民間が調達
- 事業期間：18年間 (設計・建設3年、維持管理・運営15年)
- 財 源：整備費 (国1/3・起債・単独)
 - ※施設完成時点で最も有利な財源の活用を検討
 - 運営費 (単独)

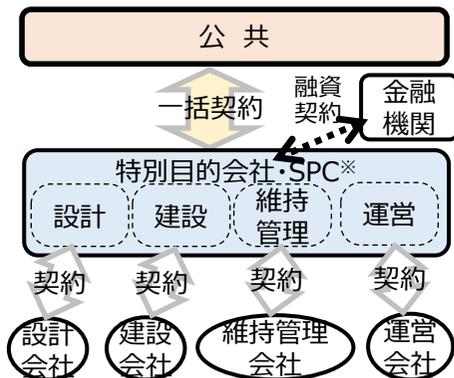
整備施設

- 調理能力：**8,500食/日** (22校配送)
- 新たに導入される主な機能
 - ・炊飯設備/防災機能
 - ・アレルギー調理室
 - ・厨芥(ちゅうかい)処理機能
…ごみ減量減容化
 - ・環境負荷低減
…例：ZEB、太陽光発電、太陽熱利用等

事業スキーム

BTO方式 (Build Transfer and Operate)

民間事業者が施設を建設した後、直ちに所有権を公共に移す方式



※SPC (Special Purpose Company)
ある事業を行う目的で、共同企業体の構成員が共同出資して設立された事業会社

整備予定地

- 市場・各学校へアクセス良好
- 市有地の有効活用



整備スケジュール

令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度～ (2028)
6月補正予算：整備・運営費債務負担行為設定 期 間：18年間(整備：R8～R10、運営15年間：R10～R25) 限度額：142億円(整備：約60億円、運営15年間：約5億円/年)				
公募準備 アドバイザー業務		公募選定 設計・建設 モニタリング業務		給食提供 (15年間)
用地測量・ 進入路設計		進入路等整備		

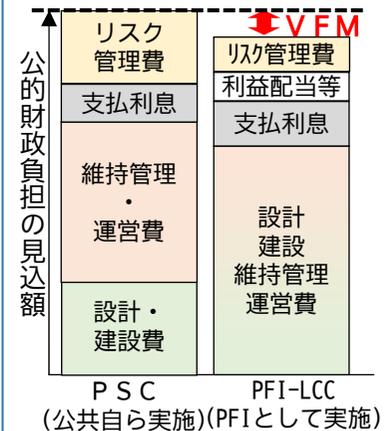
支払イメージ

- 施設整備費(イニシャルコスト)：約60億円
[内訳]設計、建設、調理設備調達 等
- 維持管理・運営費(ランニングコスト)：約5億円×15年
[内訳]調理、配送、配膳、保守管理、修繕、備品等更新、特別目的会社運営 等

区分	令和10年度	令和11年度～令和25年度
施設整備費 約60億円	引渡時支払 〔国庫補助・起債充充分〕	割賦払 〔国庫補助・起債充充分以外〕
維持管理費 運営費 約5億円/年	年度払	

VFMイメージ

VFM (Value For Money)
従来方式と比較し、PFI方式が総事業費をどれだけ削減できるかを示す割合



特定事業の選定

中学校給食センター整備事業は、次の評価結果から、**民間の資金や能力等を活用することで効率的かつ効果的となる特定事業として実施**する。

- [評価結果]
- 定量的評価：**市が直接実施する場合に比べ、事業期間中の財政負担の3.6%程度削減が見込まれる。**
 - 定性的評価：設計、建設、維持管理、運営まで事業者が一括して実施することにより、**事業者の創意工夫やノウハウ、技術力、資金調達能力等が最大限に発揮され、効率的効果的な調理環境の創出が期待できる。**
官民の連携により、**より安全かつ安心な質の高い給食の提供、食育環境の充実等、更なる給食サービスの向上が期待できる。**